



ニッター工機 株式会社  
代表取締役

## 中村 彰吾

当初は家業である『ニッター工機』を継承することに消極的だったという中村社長。だが、「父が立ち上げた会社を残したい」という想いが社長を突き動かす。直向きに技術を磨き、高いプロ意識を持ってお客様のために尽力してきた。そして紡いできた信頼を次の世代までつないでいくことが使命だ。「まだまだ、これからです」と前を向く社長。変わる時代の中で変わらぬ信念を持ち、確かな歩みを進める。

「紡いできた信頼を次世代につなぐ。  
それがこれからの使命です」

# 「最高の機械」で建設現場を下支えする 確かな技術と対応力でニーズに応え、

代表取締役 中村 彰吾 × 俳優 志垣 太郎



土木用小型機械のレンタル・販売・メンテナンス事業を手掛ける『ニットー工機』。高い技術力と対応力で顧客の多様なニーズに応え、多くの建設現場をサポートしている。本日は、俳優の志垣太郎氏が二代目として同社を牽引する中村社長のもとを訪問。事業にかける想いに迫った。

——早速ですが、中村社長のこれまでの歩みから、『ニットー工機』さんの二代目だと伺いました。

ええ。当社の創業者で、現在会長である父の背中を見て育ちました。子どものころは海外で活躍できるような仕事をしたいという夢があり、英語の勉強に打ち込んでいましたね。学業を終えてからは医療機器メーカーに就職。希望だった国際事業部への配属は叶わず、営業部でキャリアをスタートしました。それから3～4年ほど経ったころ、父から「もううちの会社に来い」と言われまして。

——社長ご自身はいずれは家業に、というお気持ちはあったのでしょうか。

なかったですね。「どれだけ頑張っても父から認めてくれないのではないか」という思いがありました。また、親が経営する会社に入ることで、「親の七光り」と周囲の方から色眼鏡で見られてしまうのではないかという不安もありました。けれども覚悟を決めて家業に入るといふ道を選択したのは、やはり「父が立ち上げた会社を残したい」という思いがあったからです。それは今でも変わらず持ち続けています。

——強い思いが原動力になったと。いざお父様とお仕事をされるようになってみて、いかがでしたか。

私の時代は特に「技術は見て覚えろ」という風潮が強かったですし、全く教え

てくれませんでしたね（苦笑）。当社では土木工事用の小型機械のレンタル・販売をはじめ、メンテナンスに注力しているのですが、自分自身で試行錯誤しながら、必死に技術を磨いていきました。今では私がスタッフに技術を教える立場にあります。毎日自分自身が先頭に立って見本を示し、一人ひとりに合わせて丁寧なサポートを心掛けています。

——自身の経験を活かし、時代に合わせた教育方法で従業員さんの成長を後押ししてられることが窺えます。昨年代替わりを果たされたとお聞きました。まさにこれから、というところだと思えますが心境の変化はありましたか。

父が高齢となり、「いよいよその時期が来たか」と心構えをし、スムーズに継承できるように準備をスタートしました。ただ、代替わり後も、私がやるべきことは変わりません。毎日、昼夜を問わず考えているのは、「お客様のニーズにいかに応え、どうしたら私共が提供する機械をお客様に受け入れてもらえるか」ということだけです。

——お客様のための飽くなき探究心を貫いてられるわけだ。やり甲斐も大きいことでしょう。

そうですね。お客様から「良い機械をありがとう」とか、「完璧な対応でした」といったお声をいただくと嬉しいです。大きなやり甲斐につながりますね。ですからお客様に満足していただけるなら、私はずっと仕事をさせていただきますね。——高いプロ意識を感じます。社長がこれまで培ってこられた確かな技術とともに、お客様の厚い信頼を紡いでられることが窺えますよ。

私はこの業界で20年以上仕事を続け

てきましたが、その中で起きた機械のトラブルは全て覚えています。だからこそ、万が一機械に何らかのトラブルがあった場合も迅速に、そして的確に対応することが可能です。また、これまで培ってきた経験で、メンテナンスにおいてそれぞれの機械で「絶対に外してはいけないポイント」を全て把握しています。スタッフに教育する際も、そのポイントだけは確実に押さえるようにと常に指導していますね。

——なるほど。「対応力」も御社の強みなのですね。お客様も安心してお任せすることができそうです。

これまで多くの機械のメンテナンスを手掛け、ノウハウを蓄積してきました。機械は丁寧に見れば見るほど、しっかり動いてくれますし、長持ちします。手間と時間はかかりますが、「機械は裏切らない」のです。だからこそ、常に技術力や対応力を磨いておく必要があるのだと

思いますね。

——長く機械と向き合ってきた社長ならではの言葉ですね。お話も尽きませんが、最後に今後の展望についてはいかがでしょう。

私共が提供している機械の色は、コーポレートカラーである若草色。多くの方に当社の機械を使っていただき、この色が全国どこでも見られるようになれば、それが一番嬉しいですね。

——そうすると当然お仕事も増えてきますから人材の力が鍵となってきますね。

おっしゃる通りです。今後はさらなる人材の確保、そして育成に注力し、次の世代につなげていくことが目標です。そうして強固な事業基盤を確立し、ゆくゆくは私共が提供する機械を海外でも見られる日が来れば、それ以上の喜びはありません。

——本日はありがとうございました。  
(2022年1月取材)

## column 常に最高の機械をお届けしたい

▼1985年の創業以来、土木用小型機械のレンタル・販売・メンテナンス事業を手掛けてきた『ニットー工機』。より良い機械をスピーディーにお届けできる体制を整え、顧客の多様なニーズに応えることで厚い信頼を紡いでいる。同社が特に力を入れているのがメンテナンス。常に最高の機械をお届けするために、高い技術力と豊富なノウハウを活かして徹底したメンテナンスを実施している。また、万が一不測の事態が発生した場合はすぐに現場へ急行しその場で修理を行うなど、顧客の立場に立った高品質なサービスを提供。こうした姿勢が評価され、全国各地の建設現場で同社の機械が活躍している。薬液注入機械やモルタル注入機器、汎用機械など様々な機械を取り扱っている同社。建設現場において、機械のレンタルを検討している全ての人の期待にきっと応えてくれるはずだ。



## 対談を終えて

「中村社長の奥様にもお話を伺うことができました。社長について、「真面目で、仕事熱心な人。結婚当初から変わっていません」とのこと。対談では、情熱を内に秘めた寡黙なリーダーという印象だった社長。建設現場になくてはならない存在ですから、これからもぜひ頑張っていたきたいです。応援していますよ！」

志垣 太郎 談

### Company Data



## ニットー工機 株式会社

東京都足立区保木間 2 丁目 32 番 4 号  
URL : <http://nitto-koki.com>